

山村留學生人数増に伴う「みどり寮」 対応・追手前高校吾北分校進学への 取り組み課題は何か？

答弁Ⅱ快適な生活ができる改修・寄宿舎整備が課題



伊東 ひさたけ 議員

平成31年度と、それ以降に、山村留學生が増加すると想定したときに「みどり寮」の受け入れ対応は十分か。

池田町長

現在、全校生徒17人で、11人が山村留學生。

町全体で少子化が進む中、地元生徒の減少が深刻な問題となっており、学校を存続していくためには、山村留学制度を利用した生徒の確保が求められている。来年度は、さらに多くの留學生を受け入れる予定。

現在の施設、職員体制などの運営体制を考えると大幅な募集人員増への対応は困難であり、既存の施設をより快適に生活できるように改修しながら、受け入れ可能な範囲での生徒の確保になると考えている。



本川中学校みどり寮

伊東議員

追手前高校吾北分校に山村留學生が進学する人数が大変少ないが、何か課題があるのか、対応策は。

池田町長

本川中学校に在籍する山村留學生の進学先は、出身県に帰り自宅から通学したり、他県の寄宿舎併設の高等学校への進学が主なものとなっている。平成27年度には、2人が追手前高校吾北分校に進学の実績がある。

現在の追手前高校吾北分校では、寄宿舎などの住居が整備できていないことから、そこが課題となっており、進学の選択肢として検討することができないといったことも聞いている。

今後は、環境整備について、早急な対応が必要と考えているので、高知県教育委員会が、市町村を支援する交付金制度の創設を2019年度に検

討しているようなので、補助金制度を活用することも視野に入れ進学しやすい・進学できる環境を整える対策について今後も吾北分校とともに検討する。

伊東議員

現在進めている、石鎚連携事業を通じて、機会あるごとに日本中・世界中に「い

の町」の誇れる山村留学制度・追手前高校吾北分校の存在をアピールしてはどうか。

池田町長

観光行政を利用し、日本・世界中に誇れる当町の山村留学制度と追手前高校吾北分校の存在を宣伝していく。



追手前高校吾北分校